



Your dreams. Woven together.

1本のワイヤーでお客様の夢を実現すること、それが私たちの使命です。

企業理念とパーパス

企業理念

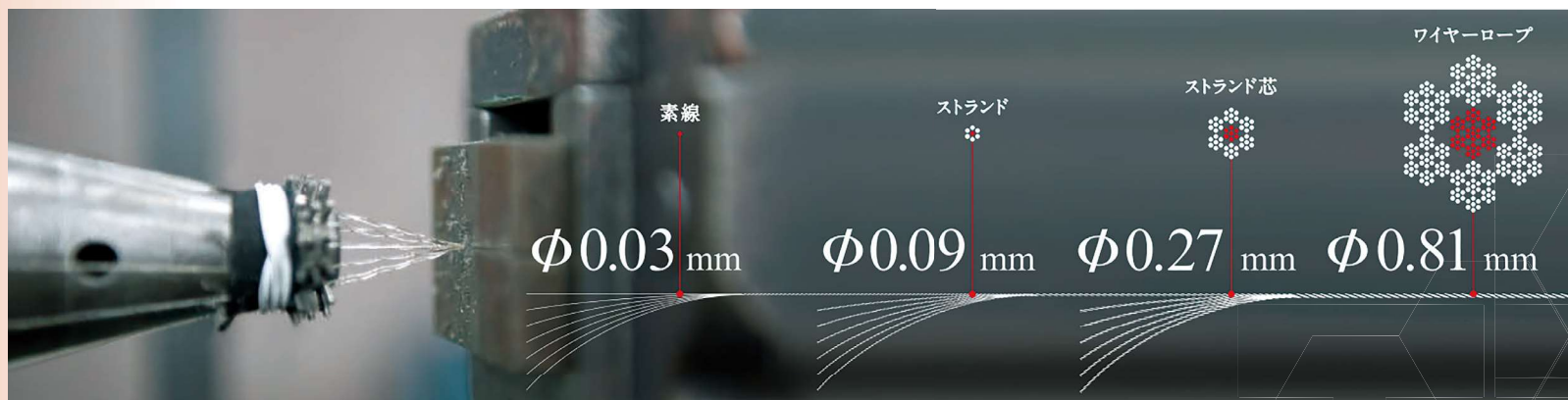
我々は、医療及び産業機器の分野において、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や、「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、全てのお客様の「夢」を実現するとともに、広く社会に貢献することを目指します。

1. 「**技術の開発**」はわが社の**生命**であり新しい技術、商品の開発に挑戦する
2. 「**顧客第一**」をわが社の**心**として最高の商品、サービスを提供する
3. 「**業績の追求**」こそわが社の**魂**であり企業の繁栄と個人の幸福を追求する

パーパス

世界中の医師やお取引先様のニーズに当社独自の技術力で挑戦し続けることにより、高付加価値な「Number One」製品をグローバル品質で提供し、世界中のお客様の「夢」を実現していきます。常に世界市場を見据え、果敢に挑戦することで、社会の持続的発展に貢献し、グローバルニッチトップ企業であり続けることを目指してまいります。

創業以来変わることのないDNA 高付加価値製品を生み出し続ける高度な極細ステンレスワイヤーロープの製造技術



髪の毛よりも細い直径0.03mmの素線を中心に、6本の素線を撚りあわせたのがストランドです。さらに1本のストランドを中心に、6本のストランドを撚りあわせたものがストランド芯。
たとえば0.81mmのワイヤーロープなら343本の素線を撚りあわせて作られています。

朝日インテックの存在意義

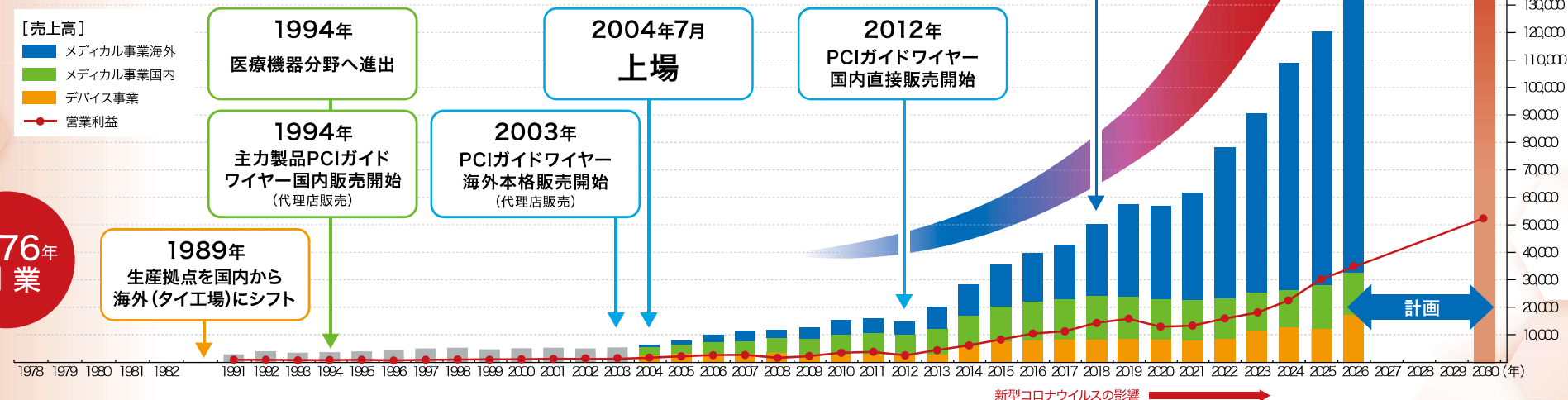
医療の未来を、オンリーワンの技術で

1本のワイヤーでお客様の夢を実現すること、それが私たちの使命です。
世界中の医師やお客様のニーズに、当社独自の技術力で挑戦し続けることで、
世界の医療と人々に貢献し続けることが当社の存在意義です。



成長の軌跡

創業当初の産業機器で培った
高度な極細ステンレスワイヤーロープの技術を活かし、
医療機器分野へと事業を拡大してきました。



産業機器部材メーカー

医療機器完成品メーカー

医療機器製造販売企業

グローバルニッチナンバーワン医療機器企業

創業以来、産業機器分野で技術を蓄積

幅広い産業分野のお客様への供給を通じて、高度なステンレス技術を蓄積。



極細ステンレスワイヤー



シンクロメッシュ



トルクロープ



ハイテンションワイヤー

蓄積した技術を活かして医療機器分野に参入

医療機器ブランド製品の国内販売を開始。産業機器製品で培った技術力を活用し、治療用PCIガイドワイヤー・カテーテル製品化に成功。



血管造影用カテーテル



PTCAガイドワイヤー



バルーンカテーテル

世界初のCTO^{*1}用のPCIガイドワイヤーを開発

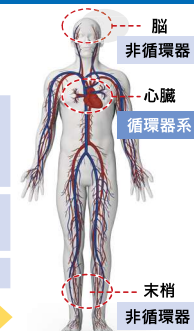
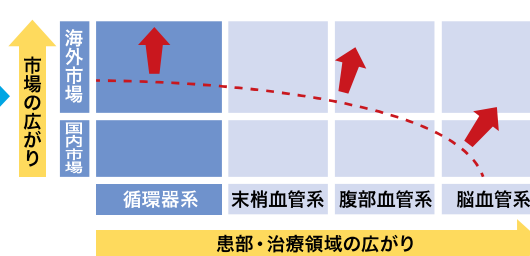
強みのコアテクノロジーに医療機器専門家のノウハウを加え、世界初のCTO^{*1}用のPCIガイドワイヤーを開発。



CTO治療用PCIガイドワイヤー「Miracle」

主力製品PCIガイドワイヤーで国内・海外トップシェア 今後、循環器領域での成功を非循環器領域へ展開強化

循環器系の拡大継続のみならず、末梢血管・脳血管系について海外を強化し、シェア拡大を目指す。



*1 CTO (慢性完全閉塞) : 血管内に完全に詰まったまま、長期にわたり放置された病変を指します。カテーテル治療のなかでも特に難易度が高いとされてきました。

収益性の追求と未来への挑戦

新中期経営計画「Building the Future 2030」における2026～2030年

収益基盤を強化しながら、次の挑戦へ布石を打つ 成長戦略加速のための5年間

— 回収期における戦略的両立 —

朝日インテックは、これまでの挑戦と試行錯誤を経て、
高い技術力と既存事業の競争力強化により、**力強い利益成長の回収期**を迎えています。
その一方で、将来の企業価値を支える**高付加価値製品の開発**にも、
手を緩めることなく取り組んでいます。
収益を伸ばしながら未来を創り出す——
挑み続ける成長のステージこそ、今の私たちの経営姿勢です。

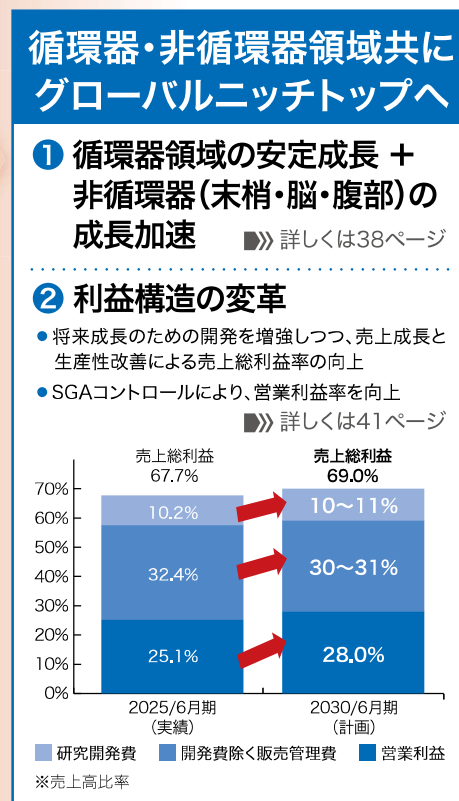
収益性の
追求



未来への
挑戦

新中期経営計画「Building the Future 2030」

グローバル市場での成長再加速に向けた事業ポートフォリオの構築、
持続的成長に向けた強固な経営基盤の構築と収益力の強化、
という2つの重点テーマを掲げ「収益性の追求×未来への挑戦」に取り組みます。



×



新規事業の創出と 高付加価値治療デバイス への参入

③ アクセスデバイスから 治療デバイスへの進出

- 臨床課題解決を目的とした石灰化デバイスの開発・販売開始
- 脳用の高付加価値製品への参入(自社開発・M&Aなど)

■詳しくは39ページ

前中期経営計画 (2020~2025)

規模の拡大

売上高CAGR	11.3%
営業利益CAGR	8.9%
営業利益率	23.5%

新中期経営計画 (2026~2030)

収益性の追求

売上高CAGR	8.9%
営業利益CAGR	12.8%
営業利益率	28.0%

次の成長ステージへ (2031~2035)

持続的成長への進化

営業利益CAGR	10%
営業利益率	30%

※為替除く 成長率

2025年

2030年

2035年

事業戦略と連動した経営基盤の構築

■詳しくは41ページ

DXの推進

ガバナンスの最適化

サステナビリティの
推進

財務基盤の強化

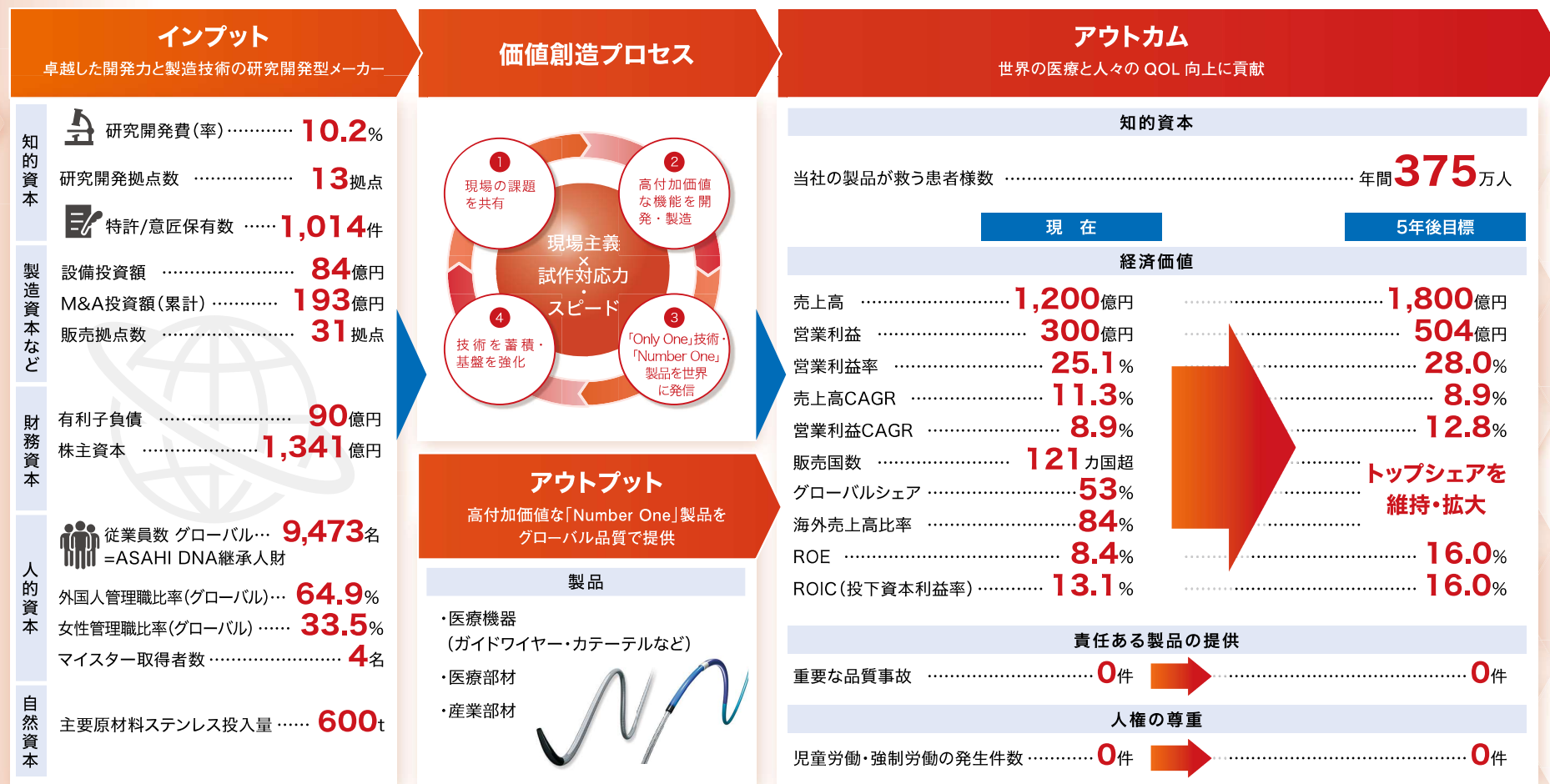
各組織力の強化

次世代の育成

人的資本の強化

価値創造の循環と指標

お客様からの高度なニーズに応える過程で生み出され、培われた技術力、その技術力をベースとして、事業を推進し基盤を強化する好循環に取り組むことで、継続的な企業価値向上と、社会全体のサステナビリティ推進に貢献していきます。



統合報告書2025 目次



新たに公表された長期経営ビジョンと
中期経営計画の位置づけ、考え方は？



第1章

経営陣からのメッセージ

投資家×経営陣ディスカッション Part.1



朝日インテック独自の強みと価値創造のしくみとは？
価値創造における重要課題とは？



第2章

価値創造ストーリー



成長戦略加速に向けて、新中計の5年間には
どのようなことに取り組もうとしているのか？



第3章

長期経営ビジョンと中期経営計画



安定成長と収益性の両立に向けて、財務戦略としては
どのようなことに取り組むのか？



第4章

財務戦略

投資家×経営陣ディスカッション Part.2



事業戦略と連動した経営基盤、非財務資本戦略とは？



第5章

サステナビリティ 非財務資本の強化



新中計を推進する上で、環境・社会への取り組みを
どのように推進しているのか？



第6章

サステナビリティ 環境と社会

環境担当役員インタビュー



持続的成長に向けたコーポレートガバナンスの
最適化とは？



第7章

サステナビリティ ガバナンス

社外取締役対談／社外取締役インタビュー



業績・会社情報



第8章

業績・会社情報

統合報告書2025 編集方針

本報告書は、他社様と比較してボリュームのある内容となっておりますが、投資家の皆様とのミーティング等を通じて把握した関心事項を踏まえ、投資判断に資すると考えられるさまざまな情報を網羅的に提供することを基本方針としています。

統合報告書の履歴とその主内容の紹介

統合報告書2022

投資家対談による次世代への展開とファイナンスの総括



統合報告書2023

トップアナリストとの対談による当社の過去から現在に至る成長ストーリーを整理

統合報告書2024

社長・会長対談、新社長のリーダーシップと組織を支える若手人財の紹介



統合報告書2025

収益性の回収と未来への挑戦の戦略的両立を示した新中期経営計画について説明

朝日インテックのコミュニケーションツール

各媒体の役割

原則主義(柔軟、実質性)
将来性・独自性を追求

企業の財務パフォーマンス
(経営成績・財務状態等)
に関連する情報

統合報告書



有価証券報告書



環境・社会への影響
(インパクト)
に関する情報

サステナビリティサイト
各種方針を掲載

細則主義(標準化)
比較可能性を追求

〈報告対象範囲〉

朝日インテック株式会社および連結子会社

〈報告対象期間〉

2024年7月1日～2025年6月30日

一部内容に当該期間以前・以後の情報も含まれます。

〈参照ガイドライン〉

- ・国際統合報告評議会(IIRC)「国際統合報告フレームワーク」
- ・経済産業省「価値協創ガイダンス」
- ・「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告書」

〈統合報告書の問い合わせ先〉

朝日インテック株式会社 経営戦略室
TEL: 0561-56-1851

〈編集方針〉

本報告書は、独自の価値創造を通じて企業価値向上を訴求し、朝日インテックグループの事業、取り組みをご理解いただくことを第一の目的に、投資家・株主の皆様が主な対象者であることを意識して編集しています。タブレット端末やPCからの閲覧を前提とするユーザー視点での編集を意識・改善しました。各事業や経営基盤をESGの統合的視点により、網羅的に解説しています。

〈将来見通しに関する注意事項〉

本報告書における業績予測などの将来に関する記述は、作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。したがって、さまざまな要因の変化により、実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

〈発行日〉2025年12月26日